

環境演出モニュメント(からくり時計)の計画設計

顧問 第一コンサルタンツ 宮崎 洋一
〇片岡 百合

1. はじめに

高知県安芸市で、阪神タイガースのキャンプ地として有名な市営球場南側で、市街地への西の玄関口である旧安芸駅跡地を利用して、公園緑地計画を行った。この中に安芸市のシンボルとなり得るものとして、カリヨン(組鐘)とからくり時計を組み合わせたモニュメントを計画した。

現在、屋外のからくり時計は県内(2箇所)のものも含めて、面的な視点のものが殆どである。当該計画は360° どの方向からでも演出を楽しめる、全国でも珍しいものとして計画したのでここに紹介する。

2. からくり時計の歴史

からくり時計の西洋での歴史は古く、1400年ほど前からだと言われている。日本へ本格的に普及し始めたのは1980年代の半ばと遅かったが、90年代初頭には街頭のからくり時計は100箇所以上となり、短期間で大変な普及を遂げた。

3. カリヨンとは

カリヨンとは組鐘のことで、調律された鐘を数個或は数十個組み合わせて、メロディーを演奏する仕掛けのことである。発祥の地はフランドル(現ベルギー)並びにオランダとされ、時は1500年頃と言われている。

演奏方法は時代によって変化しており、その変化は興味深いものがある。当初は直接打鐘であったものが鍵盤方式へと変化し、自動演奏方法になってからは、ドラム方式からロールテープ方式へと移り変わり、多くの人々にカリヨンを広めることとなった。

しかし、カリヨンを一挙に広めたのはコンピューターの導入であった。1970年代後半から開発が進められ、1980年代初頭に誕生した。演奏曲目・日時・季節等の膨大な情報を小さなチップに記憶させ、自動演奏するようになったのである。現在日本の街頭には300箇所以上のカリヨンがあるとされているが、これほどに広まったのはカリヨン・コンピューターの導入によるところが大きい。

4. からくり時計の計画

4.1 計画方針

旧安芸駅跡地は、歴史的な経緯を考えると市の発展のために果たした役割は大きく、市民はもとより県内外の人達が利用してきた愛着のある場所である。また、市の玄関口であることから、単に散策や休憩するだけの緑地計画ではなく、見て、聴いて楽しめるような工夫をするとともに、安芸市のイメージに合い、市民に愛されると同時に市をPRできるものを創るという方針で作業を進めた。このようなことから、安芸市の文化・行政・産業・公共施設・動植物等の基礎資料の収集を行い、これらの中から演出に適したものを選出するものとした。集めた資料は表-1の通りである。これから次のような整備方針を決めた。①ホープ計画に基づき、安芸市の持つイメージとの調和を図る、②童謡の里づくりの推進を念頭に

表-1

名 称		概 要
文 化	弘 田 龍 太 郎	童謡の作曲者として有名な人
	岩 崎 弥 太 郎	三菱財閥の基礎を築いた人
	野 良 時 計	明治30年に作られ、今なお人々に親しまれている時計
	土 居 廓 中	武家屋敷が今に残る一廓
	書 道 美 術 館	全国初の書道専門美術館
	歴史民族資料館	郷土出身の偉人、文化人の資料館
公 共 施 設 ・ 産 業	内 原 野 公 園	藩政時代に後藤氏が遊園として開き、花々が途切れることなく、県内憩いの場として親しまれている公園
	内 原 野 焼 柚	文政12年に窯が築かれた有名な焼物 全国シェアNo.1を誇る生産物
	阪神タイガース	キャンプ地として有名
そ の 他	桧	安芸市の木
	ツ ツ ジ	安芸市の花

置き、これにちなんだものを設置する、③今後においても安芸市の顔となるデザインを考える、④幅広い人々からの共感を得られるものを考案する、⑤全国的な目から、独自性と話題性のあるものにする。

4.2 計画案

4.1の整備方針から4案の基本計画案を検討した。この中から、安芸市の特徴と童謡を結びつけたB案を採用して詳細計画を行った。

表－2

案 名 称	デ ザ イ ン	か ら く り 演 出 方 式
A タワー型	高知県がいち早く文明開化の扉を開いたことにちなみ、西洋の文化の一端を覗かせるようなデザイン。 また、「童謡の里安芸」をイメージしたデザイン。	定刻になるとまず鐘つき人が鐘を鳴らし、その音と共に歯車が廻ります。そして弘田龍太郎のメロディーと共に4つの扉が開き、楽団が前に出て音楽を奏で、その側に配置された童謡のモチーフも動き出す仕掛け。
B カリヨン型①	安芸市の木である桧と、全国シェアNo.1の柚を形どったデザイン。	カリヨンが演奏する四季の曲と、「すずめの学校」「くつが鳴る」「お山のお猿」の曲を使い、1日の内に違う演出を数回行う。動きとしては柚の部分が違う箇所、異なる数開き、中から演奏曲にちなんだ人形が出てくる仕掛け。
C カリヨン型②	豊かな海と緑に囲まれた安芸をイメージし、松のはえた岩山と森のきのこを形どったデザイン。	カリヨンの演奏曲と「お山のお猿」の曲を使い、B案と同様に1日のうちに違う演出を数回行う。動きとしては、きのこの中から「お山のお猿」にちなんだ人形が出てきて動く仕掛け。
D 野良時計型	安芸市の観光シンボルとして有名な野良時計をイメージした時計塔。	時報と共に郷土芸能のからくり人形が現われておどり出す。(銭太鼓、赤野の獅子舞)

4.3 B案の詳細計画

(1) デザイン開発にあたっての方向性

- ①まちの景観との調和：安芸の持つ素晴らしい町並みやイメージとの調和
- ②クオリティのあるデザイン：安芸の顔としてふさわしいクオリティ感のあるデザイン開発
- ③幅広いターゲット層が共感するイメージづくり：人々に愛されるキャラクターを持つ
- ④ドラマチックな出会い：観客にとっては演出が安芸とのドラマチックな出会いとなる
- ⑤独自性と話題づくり：安芸だから可能であり、受け入れられるキャラクターづくり
- ⑥永続性に優れた環境演出：いつまでも愛され続けるまちのマスコットとしてのモニュメント

(2) 全体のデザイン

- (1)を踏まえ、市の木である桧をイメージし、からくり演出部については全国シェアNo.1の柚を形どった。

(3) 環境演出モニュメントの考え方

①音楽

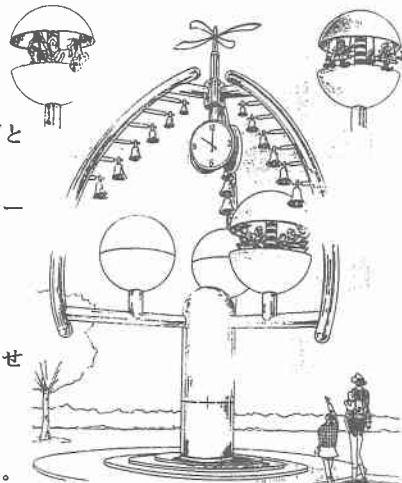
- a)コンピューターにより、カリヨンの自動演奏を行う。
- b)弘田龍太郎の童謡50曲をプログラムして、朝から夕刻まで正時ごとに時間帯・季節等で曲を変えて演奏する予定である。
- c)カリヨンをキーボードと接続できるようにして、カリヨンコンサートが開催できるようにした。

②機構(からくり)

- a)日本では珍しい複数の演出方法とした。
- b)演出は弘田龍太郎の「お山のお猿」「くつが鳴る」「雀の学校」に合わせた3種類で、1日数回、カリヨン演奏と連動させた。

③維持管理対策

- a)風雨については、一定の強さになると演出を停止するものとした。
- b)塩害に強い材料を使用するとともに、塩・砂の害を受けにくい機構とした。



5. おわりに

当該計画は、平成8年3月に工事発注され、平成8年10月に完成する予定で現在施工中である。